



### 「知る」ということ

ならしみんだより7月号は、更生保護の特集でした。当法人のボランティアさんである、更生保護女性会役員様より以前お借りした、奈良少年刑務所、寮美代子先生の本（2012年発行）を思い出しました。

「むじやきに笑う。すなおに喜ぶ。ほんきで怒る。苦しいと訴える。悲しみに涙する。いやだなと拒否する。助けてと声に出す。日常の中にあるごくあたりまえのこと。そんなあたりまえの感情をあたりまえに出せない子供たちがいます。感情はうっ屈し、ためこまれ、抑えきれないほどの圧力となり、爆発した時に、不幸な犯罪を、ひきおこしてしまいます。その原因は、さまざまで、その子自身の性質だけでなく、家庭や学校の環境、社会環境などが、複雑にからまっています。どこかひとつでも、助けになるところがあったら、理解してくれる人がいたら、ためこまずに、少しずつ思いをはき出せたら、もしかしたらその犯罪は、防げたかもしれない。被害者を作ることもなく、彼らは、犯罪人にならずにすんだでしょう。今、日本の刑務所に、収容されている人の40%が、再犯者であり、受刑者の更生は、私達自身の安全を、守ることにつながる。奈良少年刑務所の約700名は、犯罪傾向の進んでいない若い世代、ここで彼らが再教育され、一人も刑務所に戻ってこなければ・・・。犯罪そのものは、憎むべき行為であり、被害者の無念や、そのご家族の心の傷は、計りしれない。償いきれるものではない。犯罪を犯すのは個人だ。その個人に責任は帰せられて、然るべきである。しかし、社会が犯罪者を作っていることも事実である。犯罪者を作らない社会にしなければ、犯罪のない安全な社会は実現しない。更生のための教育、心のケアをする人、職業訓練指導者、民間ボランティアと、さまざまな形で、受刑者の更生に、協力している。しかし、本当の意味での、元受刑者を支えてくれる人は多いが、一般社会ではいまだタブー視される傾向があることも否めない。」

7月号の奈良市長コラムには、「その人の成育理念や、背景を含めて向き合うことが、再犯防止や立ち直りには欠かせない。保護司、更生保護、女性会の取り組みに、関心をよせて下さい」とありました。まずは「知る」ということから始めたいと思います。

### 10月行事予定

- 8(日) いどばた会
- 11(水) 訪問理美容
- 26(金) 食事会



### 9月17日(日) 敬老会

皆様のご長寿をお祝いさせて頂きました。  
これからも、お元気でお過ごし下さいますように・・・。



### お誕生日おめでとうございます

- A 様 (97歳)
- B 様 (86歳)
- C 様 (75歳)



### 《お知らせ》

- ホールでの面会を再開します。
- ・1回20分程度で、事前予約をお願いします。
  - ・情勢により、再度、中止になる可能性もございますが、ご理解下さい。

